

令和4年度学校教育自己診断の結果と分析

問内容		肯定率[%]		
		生徒	保護者	教員
(1)	学校の満足度。(保護者:生徒が生き生きしている。)	95.4	98.4	-
	暇高は楽しい。	96.2	89.4	-
(2)	教え方にさまざまな工夫をしている先生は多い。	93.4	-	-
	興味を感じる授業が多い。	82.9	-	-
	ペアワークやグループワークなどを授業に取り入れている。	-	-	92.0
	授業におけるICT機器の活用。	-	-	100
	授業アンケートの結果を教科指導に反映。	-	-	92.0
(3)	担任以外にも悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	83.8	-	94.0
	学校生活についての先生の指導は納得できる。(教員:理解を得ている)	91.5	98.2	96.0
	将来の進路や生き方について考える機会がある。	97.2	93.7	90.0
	生命の大切さや社会のルールについて考える機会がある。	89.4	93.0	-
	いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(教員:体制が整っている)	96.6	93.2	92.0
(4)	暇高祭は、楽しく行えるように工夫されている。	98.0	94.5	100
	部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。	96.8	96.2	94.0
(5)	本校の探究活動の取組みに満足。	78.7	94.7	98.0
	本校の国際交流(台湾修学旅行・オーストラリア研修等)の取組みに満足。	83.2	78.4	84.0
(6)	成績などの内容についてプライバシーが守られている。	95.8	96.5	88.0
	人権を尊重した指導への取組み。(教員:十分に話し合われている)	-	96.1	65.0

- (1) 生徒・保護者ともに肯定率はすべての項目で上昇した。生徒の学校生活の満足度、保護者の評価は非常に高い。
- (2) 生徒の授業満足度は微増し、興味を感じる授業は微減した。教員のICTを活用した授業実施率は100%で、ペアワークやグループワークの実施率は8%、授業アンケートの活用は4%上昇した。これは、授業力向上委員会が中心となって、年2回公開授業期間を設定し、「学ログ」や1人1台端末の活用、新観点別評価など、授業力向上に向けて積極的に働きかけた成果である。今後も、授業力向上委員会が中心となり、「学ログ」の活用や授業見学のテーマ設定、ICT機器の有効活用など、各教員のニーズを把握したうえで、「生徒の学力伸長や興味関心を高める授業」をめざしていきたい。
- (3) 生徒の「担任以外にも悩みや相談に親身になってくれる先生がいる」、保護者の「将来の進路や生き方について考える機会がある」、「生命の大切さや社会のルールについて考える機会」という項目の肯定率が微減したが、それ以外の項目の肯定率は、生徒、保護者、教職員ともに上昇した。カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や3年間の進路指導計画『なわて』に基づく進路指導、丁寧な教育相談などを行っている成果が指標にも出ており、今後も進路指導や教育相談体制の充実に努めていく必要がある。
- (4) 今年度は3年ぶりに暇高祭などの学校行事を行事計画通り実施できた。コロナ禍での制約もある中で、生徒がいろいろな場面で協力・工夫して楽しむ姿が多くみられた。「部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い」の教員の肯定率は微減したが、それ以外の肯定率は生徒、保護者、教員いずれも上昇した。今後も部活動や学校行事を通じて、生徒の自主・自律・自由の精神を育てていきたい。
- (5) 探究活動及び国際交流への取組みは、コロナ禍で制約が多かったにもかかわらず、生徒、保護者、教職員ともにすべての項目で肯定率が上昇した。これは、GL部が中心となって探究活動における全校体制を構築してきた努力の成果である。国際交流は3月に3年ぶりのオーストラリア研修旅行を予定している。また、台湾やオーストラリアに加えて、タイとのオンライン交流を新規で実施した。来年度は、探究活動の成果を地域に発信するとともに、国際交流においてはベトナムボランティアツアーなどの海外研修を復活させたい。
- (6) プライバシー保護や人権尊重への取組みについては、生徒、保護者、教職員ともにすべての項目で肯定率が上昇した。人権教育に関する教職員の肯定率は8%上昇したが、今後も人権教育を充実していく必要がある。